

ロシア 東欧 経済速報

(社) ロシア東欧貿易会

2005年（平成17年）4月25日号 No. 1327

目次

● 2004年のCIS諸国の経済(下)	1
● エトセトラ	9
日露貿易投資促進機構のロシア側機構が活動を開始／9	
● ロシア東欧貿易会関連の行事予定	10
● CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	10

2004年のCIS諸国の経済(下)

はじめに

前回に引き続き、CIS統計委員会発表の統計データにもとづき、同諸国の最新の経済情勢についてのレビューを行う。本号では中央アジア諸国（カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン）および南コーカサス諸国（アゼルバイジャン、アルメニア、グルジア）を扱う。

カザフスタン：CIS優等生の地位は揺るがず

カザフスタンの2004年のGDPは、9.4%増の高い成長率を記録し、2000年以降、10%前後の高い成長率を維持している。EBRDの2004年のTransition Reportのデータによると、1989年を100とした2003年のGDPは94であり、2004年はほぼソ連時代末の水準に達したものとみられる。CIS諸国は、ソ連解体後の混乱と、市場経済化を推進するなかで、1990年代に大幅なGDPの減少を経験した。そうしたCIS諸国にあって、カザフスタンの経済規模がソ連時代の水準に戻ったことは、高く評価できるであろう。世界の格付け会社主要3社によるカザフスタンの外貨建て債務のソブリン格付けも、2002年にCIS諸国としては初めてムーディーズによって投資適格の格付けを与えられ、2004年中に3社すべてから投資適格の格付けを得ている。格付けにおいてはロシアに先んじており、CIS諸国のなかでは突出して国際的に高い評価を得てきている。原油生産が大きな増産を続けており、また原油輸出も好調である。これは、単に原油高